

患者慰める絵画二十点

水保リハビリテーションセンター
熊商大付属高校生が贈る

水保病患者などが療養している
リハビリテーションセンター、水
保市立病院付属湯の里病院に、二
十二日熊本商大付属高校（佐々久
校長、生徒数八百五十人）から、
この絵画はさる一月末に、熊日
本社ホールで開かれた同高校の美
術展に出品された四百三十点の中

絵画二十点が贈られ、職員や患者
たちを喜ばせている。
から選んだもの。風景、静物など
八号から二十号までの作品で、明
るく患者たちに喜んでもらえるよ
うなものばかり。

熊本短大生を中心につくってい
る「水保病のこともたちをほけま
す会」から、リハビリテーション
センターには絵が少ないので、み
んなの作品を贈ったらすすめ
られたのがきっかけ。同高校の星
野二彦教諭に連れられ、美術部の
米田俊一郎君（二年B組）ら四人
と、はげます会の代表三人が持参
して贈った。

大橋同病院長は「病院に絵を飾
りたいとは思っていたが、なか
なか値もかさむので手に入らなか
った。付属高校の方から申し入れ
があったので、喜んで寄贈をうけ
ることにしました」と喜んでおり
さっそく各病室に飾られ、患者た
ちを慰めることになった。